



大 地

令和7年5月号

校長 指崎 邦久

田の水面を揺らす風の中、飛ぶ燕の姿に爽やかな季節の訪れを感じます。先月行いました、学習参観及び育友会総会等には、多数の方にご参加いただきありがとうございました。学校でのお子さんの様子を見るとともに、担任等の人柄を感じる機会になっていれば幸いです。

子供たちは運動会の練習に元気に取り組んでいます。ふれあいスポーツセンターや、小学校の体育館で練習をしています。5月9日と14日には市のスクールバスを借用して、全学年が練習に行ってきました。いつもと違う環境の中で戸惑わずに活動できるのだろうか心配したのですが、50m走の練習を繰り返す姿や楽しそうに団体競技の練習をする姿がみられました。落ち着いて話を聞き、素早く活動できる子供が多いことに、話を聞く力が全体的に育っていると感じました。また、選手リレーの練習のときには、応援の声がふれあいスポーツセンターいっばいに広がり、窪っ子が一つになったと感じました。教職員も、子供が全力で挑戦できるように、下見や準備、打ち合わせを繰り返して、安全に配慮しながら環境を整えています。運動会がよい思い出になるように、ご協力いただきますようお願いいたします。



運動会の練習

挨拶で人とつながろう

先日、授賞集会を行い、全力を尽くしてよい結果を収めた子供たちに賞状を渡しました。その場で、力を発揮するにはいろいろな人の応援が必要であることを話しました。そして、どのようなことをしたら人から応援してもらえるだろうか、子供たちと一緒に考えました。6年生から、「人から信用してもらえるようなことを言ったりしたりすること」「下級生に優しく接したり、登校班の班長としてしっかり行動して手本を示したりすること」が応援してもらえることになるという考えが出ました。話を続ける中で、挨拶をすることが応援してもらえることにつながるという考えが出て、みんなで挨拶をしようと話しました。



考えを話す子供

挨拶をすることで人とのつながりができます。集会では、挨拶をする人のことを応援したくなるという話も聞かれました。

また、挨拶をすることで自分の中にやる気のスイッチを入れることができます。活動の始まりに元気よく挨拶をすることでやる気を出したり、活動の終わりに挨拶をすることで気持ちを切り替えたりするなど、けじめをつけることができます。



休み時間の子供たち

先日、地域の方から「登校するときに元気よく挨拶をしてくれて元気になった」「横断歩道を渡り終わった後、止まってくれた車に一礼をしていた姿を見た。幸せな気分になった」というお話を聞かせていただきました。

窪っ子のよさを認めてくださってうれしい気持ちになりました。今後も、このような姿が広がってほしいです。ご家庭でも、進んで人と関わろうとする態度が育つように、自分から挨拶をするように声をかけてください。子供たちが将来にわたって、人に進んで挨拶をしていろいろな人とよい関係を築く力を育ててほしいです。

挑戦の土台となるよい習慣を

令和5年度12月の学校だよりで紹介しました、「マズローの人間の欲求」に関する図を再度紹介します。アメリカ合衆国の心理学者マズローは、人間の欲求は次の図のように5段階に分けることができると考えました。



子供たちが「共に挑戦する子供」となるにはどうすればよいか、この図に照らし合わせて考えました。

まず、安全の欲求が満たされる環境となるように、約束事やルールを守ることによって互いの心身の安全・安心を確保できるようにします。次に、お互いを大事にすることで、仲よくありたいという社会的欲求を満たし、安心して取り組めるように努めます。そして、一人一人の取組や努力を認め、よい変化をとらえ子供に返すことで承認欲求を満たし自信をもって取り組めるようにしていきます。このように、土台となる欲求が満たされる環境を整えることで、自己実現への欲求が生まれ、「共に挑戦する子供」の育成につながっていくと考えています。

子供が生き生きと挑戦できるように、生理的欲求をはじめ土台となる欲求を満たしながら、ご家族と共に努めていきたいと思っています。